



当別町と包括連携推進協定を締結【関連記事2ページ】

看護福祉学部長就任にあたって



看護福祉学部長 平 典子

今年度4月1日、看護福祉学部長に就任し8ヶ月が過ぎようとしております。

看護福祉学部は、平成5年開設から、早いもので21年目を迎えました。これまでの歩みを顧みますと、この間、歴代学部長が中心となり、常に前へ前への精神を持ち、何かを「形にする」という方向で学部は運用されてきたように思います。看護学領域では、北海道で初となる大学での基礎教育のスタート、これもまた道内初の大学院前期・後期博士課程の開講、そして道内唯一となる認定看護師研修センターの開設など、初めてづくしの取り組みに多くのエネルギーが注がれました。また、臨床福祉学領域では、人々の健康に広範囲に関わる福祉職の特徴を踏まえ、多様な教育課程を整備してきました。

そして現在、看護学領域では、学部での看護師、保健師の養成に加え、6分野の専門看護師とナースプラクティショナー養成課程を併せ持つ、全国随一の学部として評価を受けるまでになっています。また、臨床福祉学領域では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、福祉に関連する教員、およびスクールソーシャルワーカー養成課程を整え、福祉専門職の幅広い活動を担う人材を輩出できるようになりました。

このように、教育内容や課程を整えてきた状況におい

て、「五代目」学部長として、次に何を為すべきか。それは、新たな企画に着手するというより、この20年で創り上げてきた体制の充実を図り、次の20年を見据えた基礎を作ることではないかと考えます。具体的には、これからの学部・大学院教育を担う教員組織の再編、作り上げてきた課程での教育内容の充実と評価体系の見直し、および輩出した人材との連携を進めていきたいと考えております。次世代の教育を担う人材確保については、両学科とも力を注いでいますが、特に看護学科では、教員の豊かな教育力に定評があり、この教育力を伝承していく教員組織を計画的に再編すべく始動しているところです。また、臨床福祉学科では、多様な教育課程のカリキュラムを整理するとともに、教育支援室の活動および小グループによる学習支援を推進し、学生個々の状況に即した継続的な支援を軌道に乗せたいと考えています。重点課題となっている国家試験合格率は、この取り組みの成果として表れてくるものと考えます。

現在、多くの卒業生が、教員として母校に戻り、また看護と福祉領域の現場でエキスパートとして活躍し私たちを支えてくれています。学部にとってかけがえのない「財産」は、紛れもなく卒業生です。そのことを実感しながら、日々精進して参りたいと思います。

CONTENTS

看護福祉学部長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員紹介	2
当別町と包括連携推進協定を締結	
滝川市と包括連携協定を締結	
台北医学大学から薬学部交換学生が来学	
2013 SCP任命式	3
当別アパート組合との懇談会を開催	
2014年度 入試概要	4
2014年度 入試結果速報	6
サハリン州知事歓迎レセプションに参加	
地区別懇談会を開催	7
学園 同窓会役員懇談会 開催報告	
関東支部主催「講演会・同窓会合同懇談会」/ 道北支部主催「同窓会合同懇談会」を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【看護福祉学部 臨床福祉学科】	9
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	10
合同就職相談会開催	
SCRJP日本代表選抜大会で基礎部門	11
第2位に入賞	
TOPICS	12
○「第9回アスタキサンチン・アワード」を受賞	
○IADR Hatton Award最終候補者 (日本代表)に選出	
EDITOR'S NOTE	